

ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌

148 号

2022 年 1 月 20 日発行号

今年もよろしく おねがい します。



自然文化誌研究会代表理事 中込卓男

コロナ禍はまだ続いています。自然文化誌研究会は、子どものキャンプを中心に昨年も活動できました。これも会員の皆様のおかげです。ありがとうございます。

●タイ環境学習キャンプ、ここ 3 年実施できていません。タイ在住の若林さんからの近況報告では「ほぼ 3 年ぶりにパンダキャンプへ行って来ました。コロナにもめげずシリボンさんはファミリーフォレストの活動を続けていますし、竹炭やエキスの抽出など新しい活動も始めています。パンダキャンプも以前の賑わいを取り戻しつつあります。パンダは学生でありながら自分の仕事をやっているようですし、デーは 3 種の新種のガの話の聞かせてくれました。」最近では子どもたちへの環境学習も再開しているようです。今年に行けるといいなと思います。

●北海道の平取町二風谷で 1998 年から 2004 年まで「沙流川冒険学校」を行っていました。当時お世話になっていた人たちはどうしているだろうか時々思います。とりわけお世話になった貝澤ご夫妻はお元気だろうか、数年前に営んでいた民宿「チセ」は店を閉じたと聞いています。アイヌの文化をいろいろ教えていただいた私の師匠です。いろいろ教えてもらったことをメモっていると彼はそれをとがめました。アイヌは文字を持たないのです。体で覚えることの大切さをその後痛感した次第です。また会いに行きたいなと思っています。

●INCH での活動は私にとって学びの場であり、また実践の場でもあります。大学を退官した木俣さんが、「環境学習市民連合大学」をつくっています。「環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。」(<http://www.milletimplic.net/university/civicques.html>) 環境学習・保全 NPO 4 団体と 3 個人から出発した市民大学です。「ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。今この時に、人生における学ぶ意味について改めて考え直したいです。」と紹介しています。新しい学びの場として昨年、数回参加しましたがなかなか面白いです。ちょっとのぞいてみませんか。では、良い年になりますように。
(※ INCH=自然文化誌研究会です)

今年の予定については総会後の 3 月に発行する会報ナマステ 149 号でご案内します!!

2022年度 冒険学校 まふゆのキャンプ振り返り

2022 冒険学校まふゆのキャンプ村長・自然文化誌研究会運営委員 賛田隼人（だにえる）

まずは今年も二泊三日のまふゆのキャンプを、大きなケガをすることなく、寒さで体調を崩す子どもやスタッフを出すこともなく、終わられたことを嬉しく思います。2年前の12月に、スタッフ3人で集まり、どうやったら冒険学校を続けることができるのかを話していたことが懐かしい。いまだコロナ禍は続いています。参加者もスタッフもそれぞれが備え、冒険学校への想いを胸に参加してくれているからこそ、こうやって活動が続けていくことができ、本当に感謝しています。

今回は、参加者の全員が夏の冒険学校か、まふゆのキャンプの経験者で、キャンプ場での過ごし方はみんな慣れたものでした。自分たちでテントを張り、寝袋を3重にして寝床の準備を終えると、たき火に集まったり、工作を始めたりとしていました。じっとしても寒いだけなので、体を動かす遊びも多かった。折り紙で紙飛行機を作ったかと思ったら、キャッチボールのように飛ばしあったり、さっきまで杉の葉を集めていたカゴでキャッチしようと走り回ったりと様々な発想で楽しんでいました。子どもたちだけでなく、スタッフも一緒になって楽しんでいて、特にロープで大縄跳びをしていたときは、すぐに引っ掛かってしまうスタッフの方がむきになっていました（誰もケガをしなく

て本当に良かった…）。

キャンプ場以外のプログラムを充実させることができたのも良かったです。ヘリポートでの星空観察や、村民の加藤源久さんを講師に野鳥観察、こすげの湯からキャンプ場までナイトハイクなど、小菅の冬をキャンプ場の外にも出て、味わってもらうことができました。昨年は感染症対策優先で、スタッフにも余裕がなく、課題としていた部分なのでそうした点から見ても、のびのびと、それぞれのやりたいことに取り組むことのできた三日間だったと思います。

今回で3回目の村長でしたが、やる度に楽しくなっていくのは支えてくれるスタッフあってのことだと改めて思います。自分自身の何とかしようと気負いや不安、焦りを自覚し、それを手放して、色々な場面で任せることができると、子どもと楽しむ余裕が生まれました（今回は本当に子どもの笑顔がたくさん見られて楽しかった）。その余裕は、何度も小菅に来てくれて、一緒に活動をしたという事実と信頼があるから。学業の合間で来てくれた大学生スタッフ、遠方から毎回来てくれる社会人スタッフ、事前準備や後片付けまで参加してくれたスタッフたちへの感謝でこの振り返りを終わりにします。



この事業は令和4年度国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を受けて開催しました。

＜活動の様子と参加者からの声＞

寺井健人くん（小学校4年生）

【感想】

今回のキャンプでは靴とズボンが焚き火の火でとけるという経験をして、熱の力を体感しました。

またいつもではできない“火を自分の身長まで大きくする”紙飛行機を全力で飛ばすことができてよかったです。充実した3日間で楽しかったです。



まふゆのこすけ

イヤークャップもあると良いかも

私は“防寒のため”にマスクしたり髪の下ろしたりしてた。

下着は寒すぎず着替えないことになると思う

ポケットにはカイロをin！内側に貼れたら最強。

手袋必須。指が分かれてるほうが良い。

上下とも裾を絞れるタイプだと嬉しい。とにかく風が入ってこないようにすべし。

靴下を重ねて履くため、余裕のある大きさのものを。

霜焼けしやすい子は意識して指を動かそう…!!

夜は特に帽子大事！（髪のもべたんになるけど…）フードでもあると安心。

大きめのマフラーだと便利！ブランケット・枕の代わりになる

アウターはスキーウェア並みのものを！

インナーはできるだけウールのものを。なければヒートテックの重ね着でもOK！夜は2〜3枚重ねても足りないくらい…

最低2枚重ね！ジーパン+シャカシャカパンツでギリ生きられたくらい。一番下にタイツorスパッツをはくとなお良し。

靴下は3枚くらい重ねる!! ハイソックス×2+ソコソコ靴下とかが良いかも！

Attention!

★ “1枚で暖かい”ではなく、“重ね着で暖かい”にする！（たまたま屋間寒い）

★ HOTのペットボトル持ってくるべし。湯タンポになる!!（快眠のためには必須。）

★ すぐ暗くなるからライトを早めに携帯しておくこと！

★ 焚き火に近付くことが多くなるから、身に纏うものは全て火の粉が飛んでも大丈夫なもので！
小賢のとちより

（スタッフの森住芽衣さんが作成してくれたイラストです）



宮本茶園

2022年夏は猛暑日が例年以上に多く、野良仕事には過酷な日々が続きました。無農薬・無化学肥料への原理的なこだわりはありませんが、これまで宮本茶園は除草剤を使った事はありません。和田・上岩茶園と雑穀畑・花卉畑を毎日巡り、早朝から日没までひたすら除草作業に取り組みました。旧盆までに自分の畑はきれいにしましたが藤野茶業部の大洞茶園には手が回らず、お盆休み期間中に茶樹を覆い始めたツル草を抜き取りました。近所の先輩農家からは「暑い日中にそんなに働くものではない。お茶を飲みに寄りなさい」と度々声をかけていただき、アミーユ月曜サロンの仲間にも「熱中症にならないように気をつけてね」と心配されました。

9月24日中央高速道藤野PAで藤野特産品販売会が催され、藤野茶業部も出店する事になりました。スタッフ・出店者は6時半集合、8時の販売開始に向けて会場設営・商品搬入等慌ただしく準備作業をしていました。私は佐野川茶製品を並べ終え、軽トラを農協の駐車場に入れて再び会場に向かいました。駐車場から会場までは歩いて数分の距離ですが、上り坂で体中から汗が吹き出します。中央本線踏切の手前で立ちくらみ、ガードレールにもたれようと体を屈めたところで気を失いました。数分で意識は戻りましたが、まぶたをガードレールに打ち付けて切り、指はアスファルトで擦りむき、顔や手が血だらけです。ゾンビのようにふらつきながら会場に戻ると皆から医者にかかるように勧められ、救急車を呼んでもらいました。

搬送された病院で点滴をした後、頭部のMRI検査を受けました。医師から「暑さで汗をかくいて血液が濃くなり脳の血管が詰まったようで2箇所狭くなっている部分があり、それが原因で目まいやふらつきが出るのでしょう。血をサラサラにする薬を処方しますから服用してください」と診断されました。午後になり体調が落ち着いた頃、アミーユの橋本さんが息子に私が救急搬送された事を伝えてくださり、2人で病院へ迎えに来てくれました。お礼のあいさつをした後、息子と遅い昼食をとりました。息子は「電車に乗っている間ずっとお父さんが死んでしまうのではないかと心配した。橋本さんが車で病院へ連れて行ってくれたけど、教習所に通って運転免許を取る事にするよ」と語ります。どうしようもない父親に物心ついてからずっと反発してきた息子の親孝行、胸に染みました。

宮本透

・秋の茶仕事

9月前半は相模原市農政局で藤野茶業部の取り組みをプレゼンテーションしたり、藤野園芸センターや県農協茶業センターの会議に出席したりと藤野茶業部長としての仕事が続きました。雑穀畑のキビ収穫・大豆土寄せ等野良仕事も大忙しでしたが、厳しい残暑にめげず茶園へ秋肥を施しました。新兵器の背負い式肥料散布器をフル活用し3日間で施肥作業終了、夏の間丹精込めて手入れした茶園で夏肥の効いた緑鮮やかな若い芽がたくさん見られた事は励みになりました。秋肥の後は耕耘機で畝間を深耕、昨秋敷き詰めたススキや大豆殻・ワラ等の有機資材はほぼ分解されて土に返っています。耕耘機によって攪拌された肥料成分は根から吸収されて来年摘採される芽に蓄えられます。今年宮本茶園の茶葉評価は全て7等級以内でしたが、来年は4～6等級になるよう精進続けます。



10月になると藤野茶業部活動で一番重要な行事、県茶園共進会出品茶園予選会を兼ねた県農業技術センターの茶園巡回指導と秋整枝講習会が行われます。普及員の先生が各茶園で葉や芽の生育状態をチェックして刈る枝の位置を指示し機械操作の実技指導をするのですが、来年の収穫に直結する大切な講義で部員は真剣に聞き入っています。今年の県茶園共進会出品茶園予選会は部員が出品予定茶園を事

前にエントリーし、藤野茶業部大洞茶園を合わせ 4 茶園で競いました。宮本茶園は 2 年連続の出品を目指し、上岩で 4 等級評価の茶葉を収穫したナシバタケ(佐野川茶栽培発祥石碑のある茶園)を摘採後重点的に管理して予選会に備えました。

茶業部会で審査員の山崎先生より第 55 回神奈川県茶園共進会出品茶園が伝えられ、栃谷の中村茶園が選ばれました。予選落ちした宮本茶園は翌日から来年出品に向けて秋整枝作業の準備を始め、藤野茶業部の協同作業は月末までに全茶園の秋整枝を終わらせました。冬直前落ち着いた深緑の茶園に立つと、野良仕事の疲れが癒されます。余談ですがもうすぐ 65 歳になる私は部活動をやらずに青春時代を過ごした事が今も心残り、甲子園やインターハイ出場を目指す高校生たちのように足柄茶品評会・県茶園共進会上位入賞を目指し茶園管理に励んでいます。



・藤野茶業部初めての産学連携

7 月の事です、JA 藤野支店へ津久井せんべい本舗から東京家政学院大学と佐野川茶製品の粉末緑茶を使ったせんべい開発をするので見積が欲しいという依頼がありました。業務用粉末緑茶の注文を受けて納品した後は進捗状況を伝える津久井せんべいの Facebook 投稿が楽しみで、製品完成を心待ちにしていました。

12 月になって藤野支店へ「せんべい新製品が完成したのでご挨拶にお伺いしたい」と電話がありました。支店長と藤野茶業部としての対応を相談し、上岩茶園を案内して学生たちと交流する事になりました。19 日津久井せんべい本舗・東京家政学院大学・相模原市観光協会計 7 名と JA 神奈川つくい広報記者が上岩を訪ねてくださいました。私はちょうど営場のススキを茶園畝間に敷き込む作業をしていたので、世界農業遺産の茶草場農法を説明しながら宮本茶園と藤野茶業部大洞茶園を視察していただきました。前日の雨空と打って変わった晴天で富士山を望む事ができ、参加された皆さんは「にほんの里 100 選」佐野川の茶畑景観を堪能されたのではないのでしょうか。

足柄茶北端産地の歴史や佐野川茶製品開発の取り組みを

お伝えした後、学生さんから産学連携で誕生した「緑茶らてべえ」をいただきました。早速試食しましたが軽い歯ざわりで佐野川茶のほのかな渋みが生かされた上品な甘さの製品、学園祭で販売し好評を博したとの事でした。津久井せんべい本舗では当面受注製造で店頭販売の予定はないそうですが、津久井名物になる事を期待します。短い時間でしたが若い学生たちと意見交換できたのは孤独な野良仕事の刺激になりました。藤野茶業部初めての産学連携をテーマにする卒業論文の完成、お祈りしています！



・相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会まるまるマルシェ出展

コロナ禍の影響ですっと中止だったシュタイナー学園の文化祭まるまるマルシェが 3 年ぶりに開催されました。人気のファーマーズマーケットには無農薬・無化学肥料の有機栽培で農作物を生産しているピオ市仲間が出店します。私は 2021 年夏から佐野川茶栽培に豊田肥料、追悼会の花卉栽培には殺虫剤や I B 化成を使って栽培作物を確実に収穫する農法に変え、無農薬・無化学肥料が求められるピオ市を退会しました。まるまるマルシェとも縁が切れたのですが、お子さんをシュタイナー学園に通わせている古澤事務局長から「相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会で出展するので、一緒に藤野茶業部佐野川茶の試飲販売をしません

か」と声を掛けていただきました。

準備の打ち合わせをする中で試飲は水道水ではなく銘水で入れようと意見がまとまり、ゴエモン佐野川チーム醤油仕込み以来久し振りに桐原の軍刀利神社を訪ねて湧水を汲みました。11月12日まるまるマルシェ当日、会場の割り振られたブースにテントを設営して展示パネルや追悼会しおりバックナンバーを並べ、試飲コーナーにはカセットコンロ・佐野川茶製品・雑穀街道普及会冊子を置きました。人が集まるファーマーズマーケットやステージから離れた落ち着いた雰囲気ブースで、のんびりと見学者を待ちました。

相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会と藤野茶業部佐野川茶と雑穀街道普及会をまとめて紹介する何とも奇妙な展示会でしたが、立ち寄ってくださる見学者に熱い一番棒ほうじ茶を試飲していただきながら展示物を説明しました。ダムに興味を持つ小学生が建設工事現場の写真を食い入るように見つめる姿、配布資料を見ながら熱心に橋本さんと討論する人、たくさんの出会いがありました。若い世代と献花に使う花卉栽培の話をした時、「なぜいつまでも韓国に謝らなければならないのですか？」と質問されました。「日本政府は強制連行した戦時徴用工や軍隊慰安婦に対して、謝罪も補償もしていないのですよ。日本が犯したアジア侵略戦争の歴史を学んできた農民の私にできる戦争被害者への謝罪を考え、花卉栽培をしています」と答えましたが、歴史修正主義の浸透に怒りを覚えます。44回の歴史を重ねる相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会、続ける意味を再確認した秋の一日でした。



・雑穀街道普及会・ちーむゴエモンの活動

9月4日開催の自給農耕ゼミ(佐野川)雑穀栽培講習会は残念ながら参加申し込みが無く、キビ収穫は2日間かけて私が行いました。抜いても次々と生えてくる雑草に負けそうで収量を心配しましたが、追肥にまいた化成肥料が効き刈り取ってハザ掛けした穂はずっしり重く、取り越し苦労でした。ゴエモン活動で水田の防鳥テープ張りに千木良へ伺った折高橋師にキビの脱穀をお願いし、12日に作業していただきました。自宅で計量したところ11kgあり2023年国際雑穀年記念発泡酒の原料確保、栽培責任を果たす事ができて肩の荷が下りました。

10月2日第11回自給農耕ゼミ(佐野川)は10名の参加者があり、盛況でした。木俣師から収穫方法の講義を受け、アワの穂を刈ったりブルーシートに運ばれた穂を束ねてハザカケしたりとそれぞれが役割分担して作業に取り組みました。雑穀に初めて接したと話す参加者もいて、見本園のハトムギ・シコクビエ等を珍しそうに観察しながら収穫を楽しんでいただきました。この日収穫した雑穀は全てヤギ苑で脱穀し、見本園の雑穀は木俣師に届けました。植物と人々の博物館メルマガ12月号で告知されました講習会参加者へのモロコシ贈呈、木俣師が精白していますので楽しみにお待ちください。

2022年雑穀栽培講習会が無事終了し、防雀ネット片付けを木俣師に相談したところ「一人では仕事はできません。あなたはよいチームを作ることです」という課題が出されました。ゴエモン佐野川チームの小華和さんと小嶋さんをお願いして納屋に運ぶのを手伝っていただきましたが、老人3人で重いネットを持ち上げるのは難儀でした。来年の講習会には一緒にチームを作り、土作り・植え付け・除草・収穫・片付け等々野良仕事を担ってくれるXさんの参加を熱望しております！



※佐野川での雑穀街道普及会活動に興味のある方は宮本携帯(090-2205-8476)へご連絡ください。上岩雑穀畑では雑穀栽培講習会開催の準備を進めています。



植物と人々の博物館
Plants and People Museum

Vol.29

今年（2023 年）は、国連食糧農業機関が定めた国際雑穀年（International Year of Millets）です。1 月 7 日（土）に雑穀研究会主催の記念シンポジウム「雑穀の新たな潮流」が日本大学で開催されました（<http://milletsociety.blogspot.com/>）。急遽、木俣さんがパネリストとして総合討論に参加しました。国際雑穀年に合わせて、今後も各地でイベント等が行われると思いますので、興味のある方は参加されてみて下さい。ワノサト・プロジェクト主催の「国際雑穀年記念・つぶつぶパワー」もオンラインで 1 月・2 月・3 月に開催予定です。

雑穀街道普及会は、引き続き FAO 世界農業遺産の申請団体となる雑穀街道協議会を創るために、準備活動を進めています。説明冊子の第 3 刷を HP 上で公開しています（http://www.ppmusee.org/_src/11238/ms22n3v.pdf）。先人が継承してきた雑穀の種子を繋ぎ、栽培・食文化を後世に引き継ぐために、ぜひ賛同者としてご参加下さい。最近の自給農耕ゼミ（佐野川）や雑穀栽培講習会の様子については、「藤野便り（30 号）」をご参照ください。

<ご案内>

第 8 回自給農耕ゼミ（小金井）開催は、2023 年 2 月 5 日（日）14：00～16：00 の日程で開催します。場所は、小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）となります。今回は、上野原市西原の農家 富澤太郎さんをお願いしました。麦・雑穀栽培の現状や伝統的な技能を学ぶために集まる若者との人材交流など、最近の西原における活動をご紹介します。ぜひ、ご参加ください。申込み連絡先：042-316-1511（カエルハウス運営委員会）または office@katayamakaoru.net 会場参加資料代 300 円。参加申込みをしてくださった方には ZOOM の URL や交通案内など詳細をお伝えします。

*内容についてのご質問は kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

*これまで参加くださった方に佐野川ゼミで栽培した「モロコシ精白粒」を差し上げます。ごはんに混ぜて炊くと赤飯のようでおいしいです。ご希望の方は木俣までメールでお問い合わせ下さい。

「雑穀街道を FAO 世界農業遺産に」 国際雑穀年 2023

雑穀を栽培する生物文化多様性が豊かな地域、多摩川水系の丹波山村、小菅村から相模川水系の上野原市、相模原市緑区までをつなぐ道を、雑穀街道と呼びます。

栽培植物の在来品種を保存・継承するために種子を共有するつながりを創り、山村の農耕技術や加工・調理技術を継承し、食べ物豊かに、未来に向けて山村社会の復元力を高め、家族とともに幸せに暮らしましょう。

雑穀街道に沿って、今も雑穀など由来作物を栽培している農山村があります。東京の水源林の丹波山村、山女魚養殖を初めて成功させた小菅村、穀菜食による健康長寿で世界に知られた上野原市柵原、トランジション・タウンで知られた相模原市藤野などがあります。世界農業遺産に登録認定を受けるにふさわしい地域です。賛同される方は賛同者・団体に加わってください。

連絡先：雑穀街道普及会 幹事代表 木俣美樹男

メール：kibi20kijin@yahoo.co.jp

詳細：<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.htm>

「黄昏の太宰府」便り（第3回）

—地方都市が生き残るための条件とは②—

長濱和代（日本経済大学経営学部教員）

前回のコラムでは「地方都市が生き残るための条件とは①」として、地域を活性化させるためには人の往来が必要であることを書いた。そのためには、魅力あふれる地域の良さをアピールして、私たちが訪問したいと思える場所をいくつも併せ持てる必要性を考え、とりわけ「場所」としての観光資源と「人」としての人的資源について考察した。

地方都市の生き残り戦略において、さらに重要なのはお金の往来、つまり経済性を考えることが肝要であろう。太宰府市では、企業誘致に力を注いでおり、今年度第1回目の議会では、市長の施政方針で「企業誘致・起業創業支援の推進」として、令和3年度から庁内で企業誘致プロジェクトチームを発足させ、企業誘致へ向けた取組や調査研究を進めているとのことであった。（令和4年度第1回太宰府市長「施政方針」より）。太宰府市では、その誘致活動の候補の一つとして、アニメ産業の誘致、太宰府ゆかりの作家や作品を紹介するコーナーを市民図書館に設置して、市内の高校・大学との連携も模索するとの案を掲げている。

太宰府市内には、5つの私立の大学および短期大学がある。大学も企業の一つであり、大学における経済的豊かさは、教育研究活動の推進との両輪をなすと考えられる。大学を拠点として外から学生たちを集めることは、その地域を活性化させるのではないかな。

今回は地方の私立大学の経営の取り組みとその実態から、地方都市が生き残るための条件を考える。

1. 地域の外から人を集める—学生は大切なお客さま

私立大学が国公立大学とは異なるのは、一定数の学生、つまりお客さまがいなければ、経営が成立しないことである。そのため大学に収容可能な限りの学生に入学いただき、数年間の在籍期間により学修を積んで、継続的に学費を払っていただくことが肝要である。しかし毎年80～100万円となる学費を払えるほど、経済的に余裕のある家庭は多くない。日本学生支援機構（JASSO）の「平成30年度 学生生活調査」によると、

奨学金を受給している学生の割合は、大学で約47.5%、短期大学で約55.2%（昼間部）で、大学生の二人に一人は奨学金を必要としている。返済を必要とする奨学金の場合は、借金をして大学に行くことになる。果たして大学にはその価値があるのだろうか。

私たちは高校を訪問する時「奨学金を借りても、大学に行く価値は多いにある。」と答えている。なぜなら、高等教育を受けることにより蓄積されるのは知的財産だけでなく、生涯総年収においても同様である。大学卒業から定年まで仕事を継続

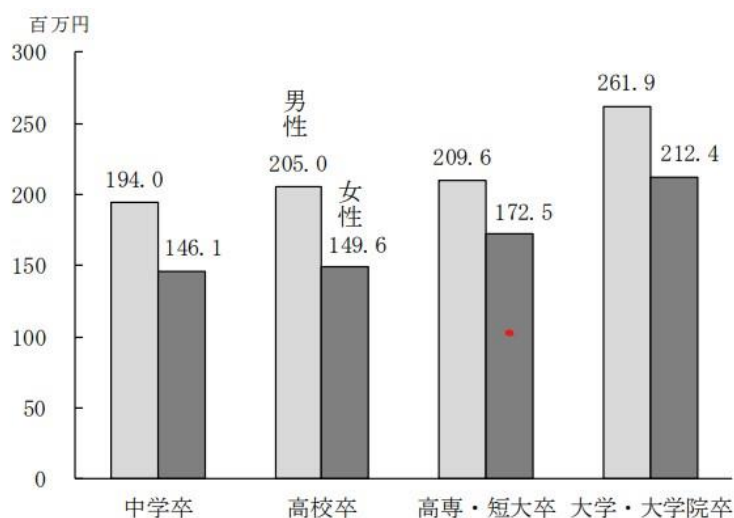


図1 60才までの生涯賃金（退職金を含まず、卒業後に60才まで退職せずフルタイムの正社員を続ける場合）
出典：労働政策研究・研究機構（2022）

した場合、最新のデータでは、男女ともに大卒・院卒者は、高卒者よりもおよそ6千万円近く高い（図1）。こうしたデータを元に、高校生には大学進学を勧め、大学中退を考えている大学生には、なんとか大学を卒業するようにと説得を試みている。

勤務先の大学では、2年生の秋頃に大学中退を申し出る学生が急増する。理由は他の進路を見つけたという内容で、アルバイトの仕事を本業にしたいという学生は、大学を辞めようとする理由の3割近くに達する。正社員の仕事に早く就いて、お金を稼ぎたいと思っているように見える。この傾向は日本人だけでなく、留学生にも顕著に現れ、特にネパールやベトナムなどの途上国の留学生は、わずか1万円でも剰余のお金があれば、家族に送金していると聞いている。

卒業までに入学した学生の3割が退学する学年もあるそうで、入学いただいたお客さまである学生にはできる限り残っていただけるよう、「個性の伸展」という目標を掲げ、学生への個別指導を徹底することにより、教育サービスを充実させている。

2. お客さまへのサービス～学生は大学で何を学ぶのか

本学の6割の学生は指定校推薦により入学することから、推薦されるだけの得意分野がある学生が少なくない。最も多いのはスポーツによる推薦で、野球、サッカー、テニス、バスケなどの強豪高校から学生たちがスカウト、または推薦を受けて入学する。中でも野球やサッカーの特待生の学生たちは、プロを志す者もいるが、卒業後にプロ入りできるのはごく一握りの数名の学生で、挫折感を味わう者も少なくない。私の担当していた学生は野球をするために特待生で入学してきたが、2年目に野球部を辞めることになり、人生の目的を失っていた。しかしラーメン店のアルバイトでやる気を取り戻して、店を任されるようになり、沖縄で出店するために店を任されて大学を辞める決意をした。本人によれば、「大学には（学修のためでなく）野球をするために入ったのだから、大学ではアルバイトを通じて家業を継ぐための実践的な勉強ができて、良い経験を積んだ。」とのことであった。そこには大学生としての学びがあったのかは疑問であるが、友人はでき、講義は難しく、高校より大学は自由度が高い（ゆえに不親切でつまらない）ということを経験したのではないかと推察される。大学経営としてはお客を逃がしたことになるが、教師としては、本人が悩んで自分の道を切り拓いたのだから、これでも良かったと思う。野球においては、似たような学生が他にもいて、退学に至ったケースがあった。高校には、大学への進学がプロスポーツ選手になることを目的とする指導ではなく、将来の可能性を広げるための学びの場であるという指導をお願いしたい。

AIやデジタルビジネスを学びたいという要望で推薦を受けて入学した学生もいる。大学では、デジタルプログラムとサービスを充実させているので、こうした学生は、興味関心が卒業後の就職に有利に働くのではないかとと思われる。大学では学生の選択の幅を広げ学びの意欲を高めようと、様々なコースを用意している（図2）。



図2 様々なコースの提案
出典：日本経済大学（2022）

3. 学生は大学で何がしたいのか？を探る

学生たちは大学でどんな学びや活動がしたいのだろうか。部活、サークル活動、アルバイトなど、私の場合、大学の講義と研究の優先順位は低かった。自分にとって充実した学生生活というのは、毎日、気持ちよく走って、良い成績を出せることであった。膝を故障するほど走り込み、学部時代の後半は長距離から競歩に種目を転向することによって、大学記録を残すことができた。そんな自分を応援してくれる大学とゼミが良いと思ってきた。

本学では2年生の秋に、指導を受けたい先生、つまり自分が学びたい研究室を選択して、3年以降の専門ゼミで学ぶ。しかし学生のほとんどは、研究テーマが決まっていない場合が多く、そのテーマを決めるために、私のゼミでは外に出て研究テーマを探しに行く。研究室によっては、教員の研究を割り振り、継がせる場合もある。私も、森林資源管理や環境課題を解く研究を志す学生に入ってきてほしい。ただ私が学部および院生時代にそうであったように、自分がしたいと思う好きな研究を探究してほしいと願う。

就職希望の学生にはその道を支援までするのも、お客さまサービスの最終段階となる。つまり就職先を決めることで、社会に出てからの生きるための生活の糧を授けるのである。私のゼミではネパールやベトナムからの留学生が多数いて、学生のうちはアルバイトで稼ぎ、卒業後は就労ビザを取得して日本の企業で仕事をしたいという希望者が8割を占める。これが難しく、12月になっても留学生の半数近くが、就職活動をしている状態である。日本人学生はほぼ内定が出ており、中には、事業を承継する（家業を継ぐ）者もいる。

4. 教育・指導が優先、研究と自分の仕事は夕方以降

「地方の私立大学では、どこも学生集めが大変だ」と聞いている。大学として利益を上げるには、専任教員の数減らして、受け持ち授業数と担当学生数を増やすことになる。すると私たちの仕事の量も比例して増加する。授業は週に平均7コマで、受け持ち学生数は各学年20名以上を超過し、今期は19名の卒業論文を指導中で、そのうち8割は留学生である。昼間は他に会議や高校営業活動、時期により入試監督やオープンキャンパス、出前講座に審議会委員などの社会貢献活動もあり、昼間はフルタイムで活動しており、自分の研究と仕事は夕方以降になる。夜は疲れて、最近は目も老眼で見えなくなる傾向にあるが、研究ができない（またはしない）教員にはなりたくないの、夜は研究時間に当てて、せっせと論文や本を執筆する。そうすると朝も早い、夜も遅くまで大学に残り、自分が疲弊していくのを感じる。好きなことを継続するには、労力を要するのかもしれない。それでも今年は3冊も本を出版できたのは、今までの研究データと蓄積があったからである。*) 疲れ知らずに研究を幸せと感じられる時間のやりくりを考えたい。

5. 地域と大学が提携するまちづくり

太宰府市では、先に述べた5つの大学で構成する「太宰府キャンパスネットワーク会議」が平成10年から設立され、市民の生涯学習の振興と地域に開かれた魅力あるキャンパスシティの創造をめざしている。その4年後には、加盟大学の代表学生からなる「学生連絡会」が発足し、市内イベントへの参加やボランティア活動、キャンパスフェスタの運営などに積極的に取り組んでいる。平成27年には地域の社会課題の解決をめざして、5つの大学と太宰府市の連携協力に関する協定が締結した（太宰府市HPより）。

大学の教職員たちは、学生たちを全国および九州各地から太宰府へ集めるために、日々、奔走している。こうした私たちの教育と研究の努力の積み重ねが、地域の活性化につながれば幸いである。

*) 文献の紹介

1. 『ヒマラヤの森はなぜ守られたのかーインド・ウッタラーカンド州における森林パンチャーヤトの資源管理ー』九州大学出版会

<https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784798503417>

著者割り（2割引き）あり。「まえがき」と「あとがき」後半は、出版のために書き下ろしたので、比較的読みやすいと思う。

2. 『DX時代の人づくりと学び』 人言洞

降旗信一・金馬国晴・加納寛子・佐々木豊志 編著（長濱は第3章を担当）

<https://www.ningendo.net/books/235/> 12月20日に、教育のDXにかかわる本を共著で出版した。本の紹介では「従来の学校教育、社会教育、企業の人材育成の枠組みを超えた新たな学びと人づくりのビジョンと方法を示すことで、来るべき時代の再創造・再構築に向けた独自の役割を果たす」としている。地域、学校、企業で教育活動に関わられているみなさん、教職を志望されている学生さんらに読んでいただきたい。

3. 『学校教育の未来を切り拓く 探究学習のすべて—PCXRサイクルによる指導原理と評価法』 合同出版 環境探究学研究会

<https://www.godo-shuppan.co.jp/book/b607468.html>

著者割り（3割引き）が可能。 長濱研究室までご連絡ください。 <https://nagahamakaz.net/contact/>

長濱 和代 著
A5判 並製 216頁 定価2,970円

今日、世界的規模で進行する森林資源の減少と解決に向けて、参加型森林管理の重要性が指摘されている。本書では、森林面積が増加に転じているインドの森林パンチャーヤト（森林に関わる住民自治組織）に注目。インド・ヒマラヤ山脈の農山村において、いかに地域の実情に即して森林資源を管理し活用しているのかを、現地で長く調査を続ける著者が明らかにする。

読者対象…森林資源保全、途上国のSDGsやジェンダー問題、コミュニティ林管理、住民自治制度などに関心を持つ読者全般。

主要目次

第1章 世界の森林減少と参加型森林管理
森を守るために

第2章 州の森林制度と地域規則の展開
森林パンチャーヤトに関する州制度および村落制度の解明

第3章 村落での森林利用管理の実態と住民の意識
パンチャーヤト林の管理と利用

第4章 森林パンチャーヤトの資源管理における住民組織と参加
ヒマラヤの森はなぜ守られたのか

インド・ウッタラーカンド州における
森林パンチャーヤトの資源管理

**ヒマラヤの森は
なぜ守られたのか**

パンチャーヤト
**住民自治組織による
参加型森林管理**

長濱 和代（ながはま かずよ）

愛知教育大学教育学部数学科卒業。
筑波大学大学院生命環境科学研究科修了。
東京大学大学院新領域創成科学研究科単位取得退学。
博士（農学、筑波大学）
東京都小学校教員（荒川区・足立区）を経て、
現在、日本経済大学経営学部教授、東京大学大学院農学生命科学研究科農学研究員。

主要著作
編著：『学校教育の未来を切り拓く探究学習のすべて』合同出版、2022 ほか。



2022年11月中旬刊行



申込書

ヒマラヤの森はなぜ守られたのか

ISBN 978-4-7985-0341-7

最寄りの書店や大学生協を通じてご注文ください。

C3061 定価 2,970円

小会へ直接ご注文の場合は、送料として別途500円を申し受けます。

ご住所：〒 —

お名前：

電話番号： — —

冊

『第19回 NPO法人 自然文化誌研究会 通常総会』のご案内

2004年に東京都の認証を受けてから、第19回目の総会を行います。昨年に引き続き、オンラインでの開催としました。正会員の皆様はぜひご出席ください。また出欠を同封のハガキでお知らせ下さい。このハガキは欠席の場合は委任状となっております。ご意見などもお気軽にお寄せください。なお、正会員以外の会員の皆様もオブザーバー参加が可能です。

日時：2023年2月18日（土） 11:30 開始～12:30 終了予定

場所：ZOOMでのオンライン会議

議題：①2022年活動報告 ②2022年収支報告 ③2023年活動計画
④2023年収支予算 ⑤役員の改選 ⑥その他

***出席される方にはオンライン会議のURLをお知らせしますので、
前日までに事務局までご連絡ください。**

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH（インチ）。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40年以上にわたって活動が続けています。2004年からNPO法人として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座（のびと研修会）』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。

それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額（1～12月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000円 一般会員：5,000円

学生会員：3,000円

賛助会員（個人・団体）：10,000円

家族会員：6,000円 準特別維持会員：50,000円

特別維持会員：100,000円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000円

雑穀街道特別会員：1口1,000円から

・成合基金（冒険探検基金）：「成合基金」とご記載してください。

・寄付：「寄付」とご記載してください。

①郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

②ゆうちょ銀行：店名 008 普通口座

口座番号 9479450

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナチュレ 148号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌
＜発行日＞2023年1月20日

＜編集＞自然文化誌研究会 事務局

＜発行＞特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

＜事務局＞〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL：0428-87-0165・090-3334-5328（事務局黒澤）

E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp

H P： <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>